

未来まちづくり塾

第2回「ファシリテーション」開催報告

開催日時：

2013年11月22日（金）19:00～21:00

開催場所：

淀川区役所5階会議室

参加者数：

14地活協24名

登壇者：

Office M 代表 松井一恵氏

全体の流れ：

- 19:00 ファシリテーション—会議が元気になる講座—
講師：Office M 代表 松井一恵氏
前回講座内容の共有、自己紹介
「会話」の練習…「今日の朝ごはん」
「私のストレス解消法」
「うちの地区の自慢」
「対話」の練習…「自分がえらいと思える瞬間」
「今、これにはまっています」
ホワイトボードミーティング「役割分担会議」
- 21:00 閉会

内容：

淀川区内の各地域活動協議会の実務者を対象とした連続講座「未来まちづくり塾」の第2回目として、Office M 代表の松井一恵氏を講師にお招きし「ファシリテーション—会議が元気になる講座—」を開催した。

「前回の講座の様子について、どなたか教えて頂けませんか？」という冒頭の松井氏の投げかけに対し、目をそらす参加者。そこで、全体での発表ではなく6名程度のグループで話し合ってみると、「背中にシールを貼り付けてグループ分けした」「これからのまちづくりについて話し合った」などの報告が次々と出てくるようになった。

「大勢の前だと話しにくいですが、少人数のグループの中だと話しができる。会議の中で発言をしない人は何も考えていないのではなく、その内容についてちゃんと考えている。やる気がないのではなく、持っている力を出し切れていないだけ」と松井氏。

元気な会議には関係づくりが必要不可欠。その第1段階として「会話」が設定され、3つのテーマについて2人1組で話し合われた。

「今日の朝ごはん」（聴き手と話し手が交代しながら1分間）、
「私のストレス解消法」（同じ組で2分間）、
「うちの地区の自慢」（同じグループの、別の組となり4分間）

第2段階は、より深い会話をする「対話」のセッション。

松井氏は、話している者同士が同じ情景を思い浮かべられるようにすることが大切であり、**オープンクエスチョン**（～という？ たとえば？ など）や**あいづち**を打つなど、**質問の技**を用いることで、より深い話ができるようになる」と紹介。

松井氏と参加者代表1名によるお手本が示された後、各グループ内で2つのテーマについて話し合われた。

「自分がえらいと思える瞬間」
（同じグループのまだ話していない人同士で1分間）
「今、これに“はまって”います」（グループ内で90秒間）

自分の話に興味を持って聴いてもらえるということもあり、参加者はテーマに取り組むごとに段々と笑顔が垣間見られるようになった。

その後休憩を挟んで、グループを無作為に再編し「役割分担会議」のセッションに移った。このセッションでは「地域のお祭り」に向けた準備をテーマに、グループごとに「本部」「金魚すくい」「たこ焼き」「お好み焼き」のブースを担当し、「**発散**」→「**収束**」→「**活用**」の順番で話し合い、書記がホワイトボードに出された意見を記入した。

普段の地域活動に近いテーマとあって、参加者は皆真剣そのものであり、「本当にやる訳ではないので、皆さん命を懸けなくても大丈夫ですよ～」と松井氏から声がかかるほどに白熱した議論が交わされた。

最後に松井氏は「ホワイトボードミーティングの後に写真を撮っておくとそれが記録になり、後から前任者も確認することができる」と解説。

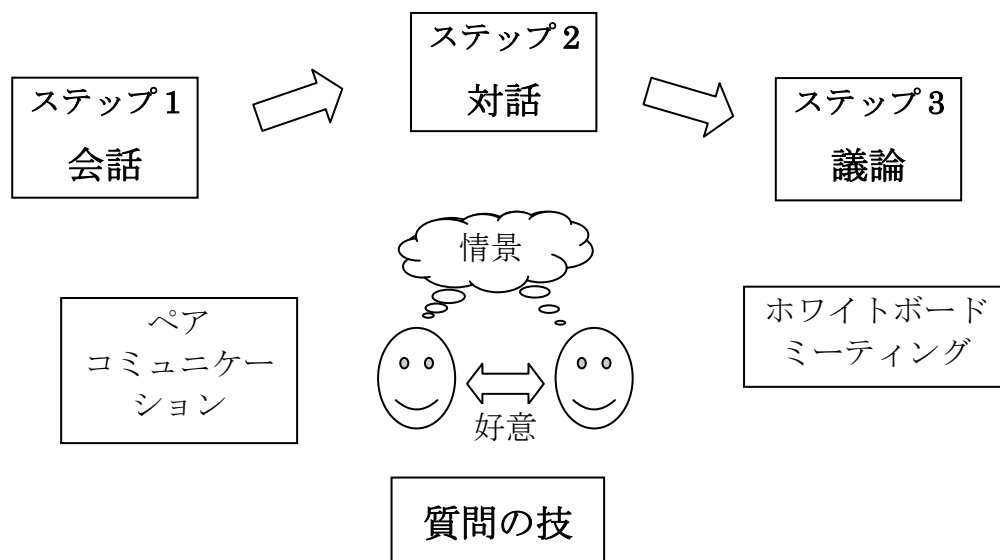
「やる事が決まれば会議は動く。必要な仕事をできるだけ出して、ホワイトボードに書き出していくことで、やるべきことが見えてくる」と講座を締めくくった。

講座内で紹介された項目：

講座のルール（3つ）

- ・失敗OK！ チャレンジする
- ・守秘 他の参加者から聞いた個人的な話を、外で他の人に言わない
- ・楽しむ

講座の流れ（イメージ図）



ホワイトボードミーティング「役割分担会議」

発散 ⇄ 収束 ⇄ 活用

「発散」：そのブースにどんな準備物が必要か

「収束」：必要な準備物を踏まえ、いつまでの時期に何をするか

「2か月前」「1か月前」「1週間前」「前日」「当日」「後日」

「活用」：それぞれの準備事項について、誰が担当するか

2013年12月6日
淀川区まちづくりセンター支部

